

新しい教員養成カリキュラムの試み ー教員養成フラッグシップ大学と 自律型カリキュラムデザイナーー

令和 6 年 1 2 月 6 日 教員養成部会
【東京学芸大学】

本日の発表

1. フラッグシップ大学で目指すテーマ、人材像、伸ばす資質・能力
2. 新カリキュラム（令和5年度改訂）の構造
3. 自律型カリキュラムデザイン
4. フラッグシップ大学特例の活用

1. フラッグシップ大学で目指すテーマ、人材像、伸ばす資質・能力

テーマ：子供と教師が共に新たな社会を創造していく 学校教育の実現

フラッグシップ大学で
目指す人材像

フラッグシップ大学で伸ばす資質・能力

※丸数字は「教員養成フラッグシップ大学
公募要領」の重点課題ナンバー

変化が激しく予測困難な時代へ対応できる力と新たな価値を創造することができる力を子供に育成することができる教師

対子供

○「探究力、創造力、他者・社会と協働できる力」を育成する力

- 1) 教科横断学習（STEAM含む）実践力⑤③
- 2) アクティブラーニング実践力①③

○3) 子供が置かれている多様な環境への対応力⑥

学校や社会をより良く変革することに自律的・主体的に取り組むことができる力を有する教師

教師自身

○4) 学び続けるために、自己をマネジメントする力②

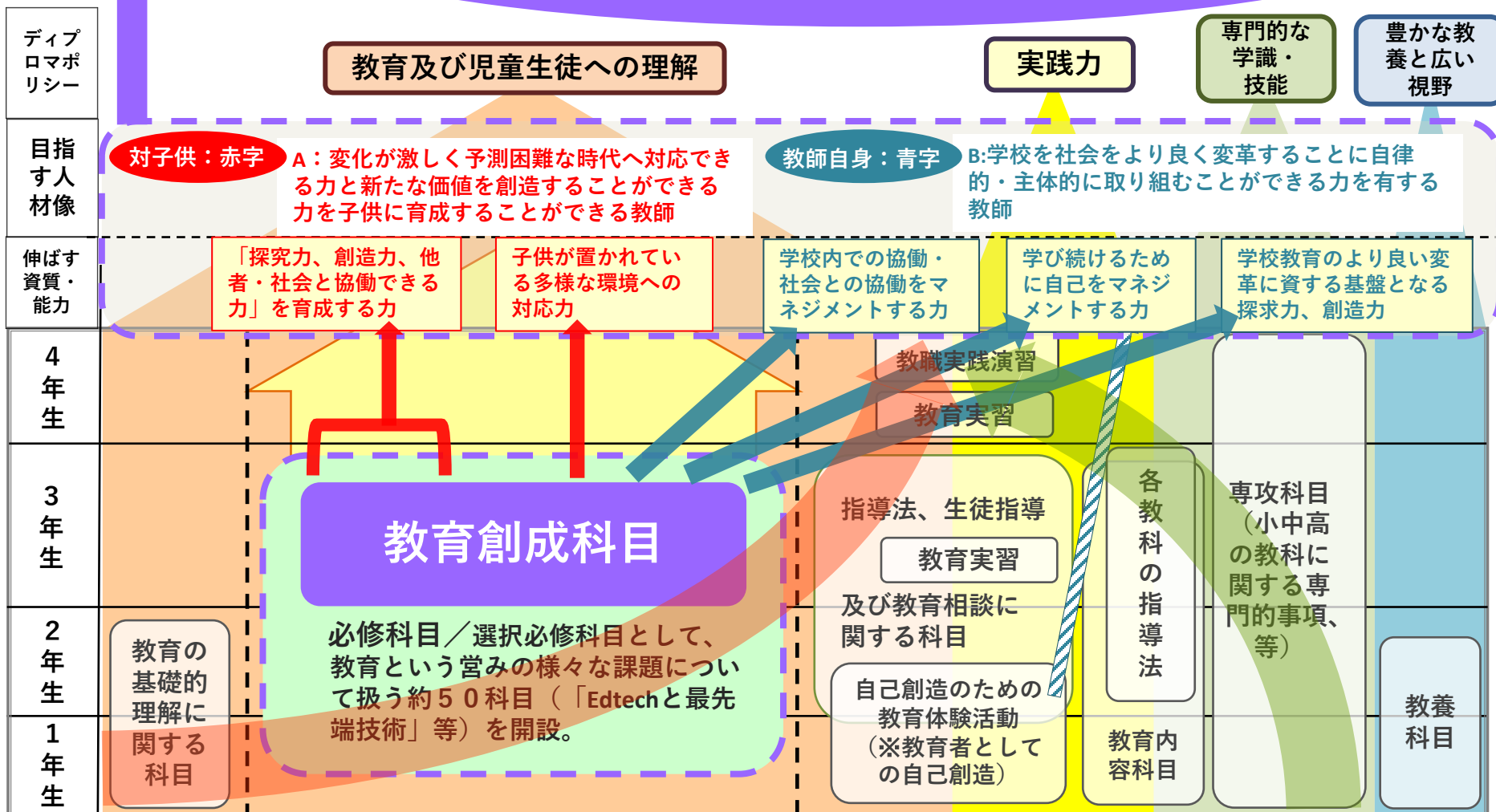
○5) 学校教育のより良い変革に資する基盤となる探究力、創造力②⑤

○6) 学校内での協働・社会との協働をマネジメントする力④

1. 東京学芸大学カリキュラムマップ

自律型カリキュラムデザイン

本学が定める2つの「目指す人材像」や5つの「教師の資質・能力」と、教育創成科目を中心とした授業科目を組み合わせ、自らが目標とする教師像を設定する。



2. 令和5年度カリキュラム改訂方針・ポイント

令和5年度のカリキュラム改訂にかかる3つの柱

- (1) 教育者養成を総合的にリードする大学にふさわしいカリキュラム
- (2) 学校教育系において複数免許等の取得のゆとりのあるカリキュラム
- (3) 本学の財政的な状況を踏まえた持続可能性のあるカリキュラム

カリキュラム改訂のポイント

①教育創成科目の単位数増（8単位増）

②専攻科目の単位数減（12～17単位減）

- ⇒教員養成に特化したカリキュラムへ
- ⇒カリキュラム全体の科目数削減
- ⇒卒業までに必要な総取得単位数の削減（3単位）

→少ない資源（科目数）で必要な学びを効率良く提供できるカリキュラムへ

2. 令和5年度改訂カリキュラムの構造

カリキュラムの比較

【初等教育専攻 幼稚園コース以外の場合（小免取得を卒業要件とするコース）】

旧カリ			R5カリ	
教養科目		22単位	教養科目	22単位
教育基礎科目		27単位(※)	教育基礎科目	29単位
専攻科目	教科・教職に関する科目（共通SE）	3単位	教育創成科目	11単位
	専攻に関する科目、等	72単位(※)	専攻科目	55～60単位
自由選択		5単位	自由選択	4～9単位
		129単位	126単位	

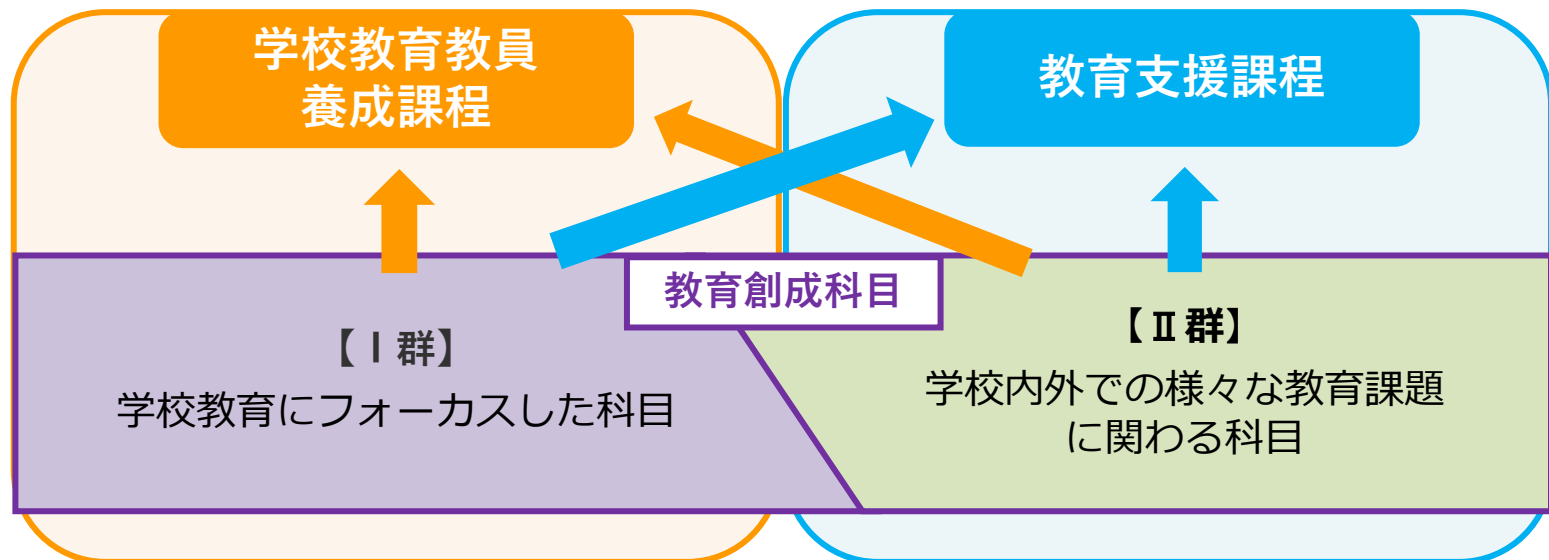
⇒

(※) 実際は「教育基礎科目」47単位、「選考に関する科目、等」52単位だったが、カリキュラム改訂にあわせて各教科の指導法20単位を「教育基礎科目」から「専攻科目」に移設させたため、新旧比較を分かりやすくするため、この図においては20単位分の調整を行った。

2. 教育創成科目の特色

教育という営みの様々な課題について先端的な内容を学ぶことを目的に、学校教育教員養成課程と教育支援課程を横断する科目（1単位）です。

- 本学の考える、目標とする「人材像」や、これからの教師に必要な「資質能力」に分類される科目群。自らの課題認識に基づいて、必要と考える「人材像」「資質能力」を意識しながら、授業科目を選択する（自律型カリキュラムデザイン）。
- 主に学校教育にフォーカスした【Ⅰ群】と学校内外での様々な教育課題に関わる【Ⅱ群】の科目で構成。



2. 教育創成科目（フラッグシップ大学特例科目・必修）

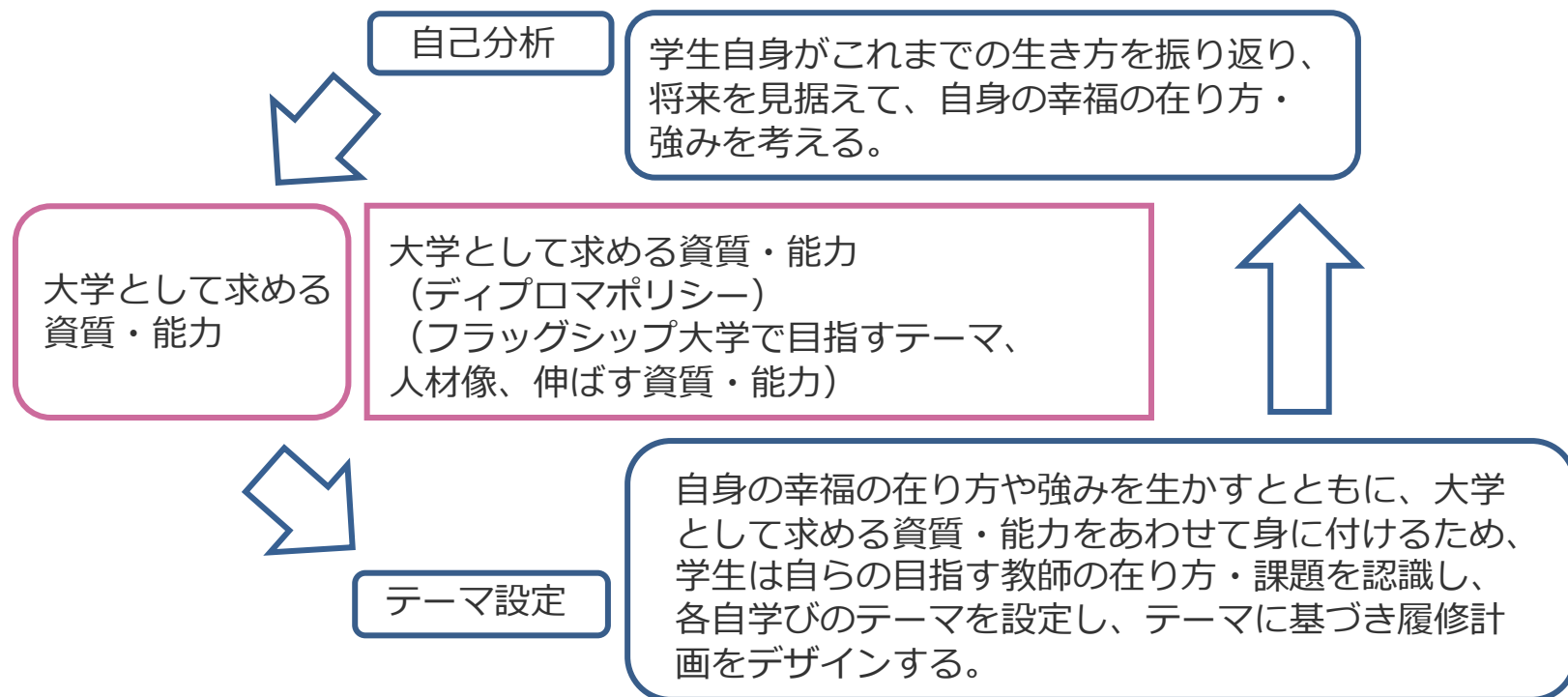
科目名	対象学年	単位数	科目概要
社会に開かれた探究と創造の学びのデザイン	3 前	1	多様なコース・プログラムの学生で構成されたクラスで行う講座である。社会に開かれた学びを考えるうえで、総合的な学習（探究）の時間における探究の考え方やSTEAM教育について理解を深める。また、認識科学に基づく「探究」活動と設計科学に基づく「創造」活動が往還する学びのデザインのポイントについて学び、協働的なデザイン・ディスカッションを通して、新たな教育者としての視点を高める。
学びを支えるファシリテーションの技法	3 前	1	子どもたちが「主体的・対話的で深い学び」や「個別最適な学び」が実現できるようにするために、「教師のファシリテーション」とは何かを探究する過程を通して、ファシリテーションやその周辺理論を学び、ファシリテーションの諸技法を体験しながら、ファシリテーターとしての教師の具体的イメージを喚起しつつ、「教師のファシリテーション」力を育成する。
教師のレジリエンスと自己管理能力の育成	3 後	1	レジリエンスには、自尊感情、感情のコントロール、ソーシャルスキル、ストレス耐性、ソーシャルサポートなどの要因が関与している。これらはいずれも教師にとって重要な自己管理能力にも関わる。レジリエンスに関与する要因とそれを高める方法について理解し活かせるようになると、教師としての安定した職務の遂行と精神的健康に寄与することが期待できる。本講義では、レジリエンスの基本的な考え方と関連する要因について知識を得るとともに、レジリエンスを高める方法についてグループワークを行い技術を習得する。
教育のためのデータサイエンス	2 前	1	常に変革が求められ、情報が高い価値を持つデジタル社会の到来を踏まえ、データを用いた資料等を使いこなし、学校教育の場で、根拠に基づく指導の改善や子どもたちとの関わりの工夫を実践するための基礎的素養を身につけることをねらいとする。習得を目指すレベルはリテラシーレベルであり、さまざまな教育課題についてデータをもとに正しく考える態度を身につけることを目指す。具体的には、①データを集める力、②データで伝える力、③データを使う力、④データを読む力の4つの力を習得し、これら4つの力を活用し価値の実現に向けて身近な問題を解決するイメージをもつことを目標とする。また、本授業の学びを通じて、データサイエンスや人工知能（AI）についてより専門的に学ぶための基礎を形成する。
チーム学校と多職種協働	3 後	1	子どもの貧困や児童虐待、不登校といった社会課題を取り上げながら、「チーム学校」が求められる背景や政策動向、多様な専門スタッフからなる学校内の支援体制、並びに学校外の支援機関について概説する。また、それぞれの諸課題に対応した支援実践の事例とチームアプローチの基本的な理論を取り上げた映像教材を用いて、多職種・多機関協働によるチームアプローチの実践的な知識を養う。（2～6回は一部ゲストとの対談あり）

3. 自律型カリキュラムデザイン

自律型カリキュラムデザインとは・・・

目指す教員に近づくための 自分だけのカリキュラムを作成すること

- ①自分の価値観・現状を確認する ➡ 自己分析
- ②目標を明確にする ➡ 最初に「学びのテーマ」を設定
- ③必要な知識を身に付ける・経験を積む ➡ 各科目で身に付く知識を整理



3. 教育創成科目と自律型カリキュラムデザイン

フラッグシップ大学で目指す人材像		変化が激しく予測困難な時代へ対応できる力と新たな価値を創造できる力を子供に育成することができる教師		学校や社会をより良く変革することに自律的・主体的に取り組むことができる力を有する教師		
フラッグシップ大学で伸ばす資質・能力		「探究力、創造力、他者・社会と協働できる力」を育成する力	子供が置かれている多様な環境への対応力	学び続けるために自己をマネジメントする力	学校教育のより良い変革に資する基盤となる探究力、創造力	学校内での協働・社会との連携をマネジメントする力
必修	I 群	★社会に開かれた探究と創造の学びのデザイン	★チーム学校と多職種協働（貧困や虐待など、子供の現状）	★教師のレジリエンスと自己管理能力の育成	★教育のためのデータサイエンス	★チーム学校と多職種間協働（連携のための効果的なマネジメント）
		★学びを支えるファシリテーションの技法				
選択必修	II 群	●学校教育におけるSDGs ・エコスクール論 ・小学校におけるプログラミング教育 ・環境と教育実践 ・教育評価の理論と実践 ・遊びと発達・発達 ・地域の環境観測とその実践 ・子どもの遊びと生活 ・学校図書館で深める主体的な学びのデザイン ・日本の教科教育と授業研究	●いじめ・不登校と変化する社会 ・インクルーシブ教育とユニバーサルデザイン ・外国人児童生徒への日本語教育 ・特別ニーズと教育 ・不平等と学校教育 ・現代の学校と外国人児童・生徒	●未来の学校をみんなで創る ・教室集団の人間関係 ・現代学校論 ・学校経営のための教育経営 ・教育政策 ・教師の省察的実践のための教育思想 ・日本の教育（A）、（B）	●教育の情報化基礎 ・教育ビッグデータとデータ分析	●学校保健・衛生管理とマネジメントサイクル ・教職基礎としての子供の安全 ・学校教育と地域連携
		●国際バカロレア教育と探究学習の視点 ・自然体験学習論	●こどもの学び困難と教育支援 ・国際理解教育論 ・子ども社会学 ・文化間移動と子どもの学び ・異国に育つ子どもたちの教育	●教育・教育支援者のメンタルケアの基礎理論 ・教育から見る日本の社会と歴史	●Edtechと最先端技術の活用 ・教師・教育支援者のための紙面・映像編集 ・教師・教育支援者のための情報セキュリティ ・外国の教育（A） ・外国の教育（B） ・教育開発と教育協力 ・世界の教育多様性	●学校教育とスクールソーシャルワーク ・現代の教育課題と文化遺産 ・教育支援とカウンセリング ・地域スポーツと部活動 ・学社連携と児童・生徒

実践に繋げる科目

授業観察演習

自ら履修計画をデザインし、目標とする資質能力を身に付けるプロセスを重視。

実践に繋げる科目

★授業観察演習

自ら履修計画をデザインし、目標とする資質能力を身に付けるプロセスを重視。

★（赤字）：学校教育教員養成課程 必修科目

●（橙字）：I 群・II 群（選択必修科目）のうち、中核的な現代的・先導的科目

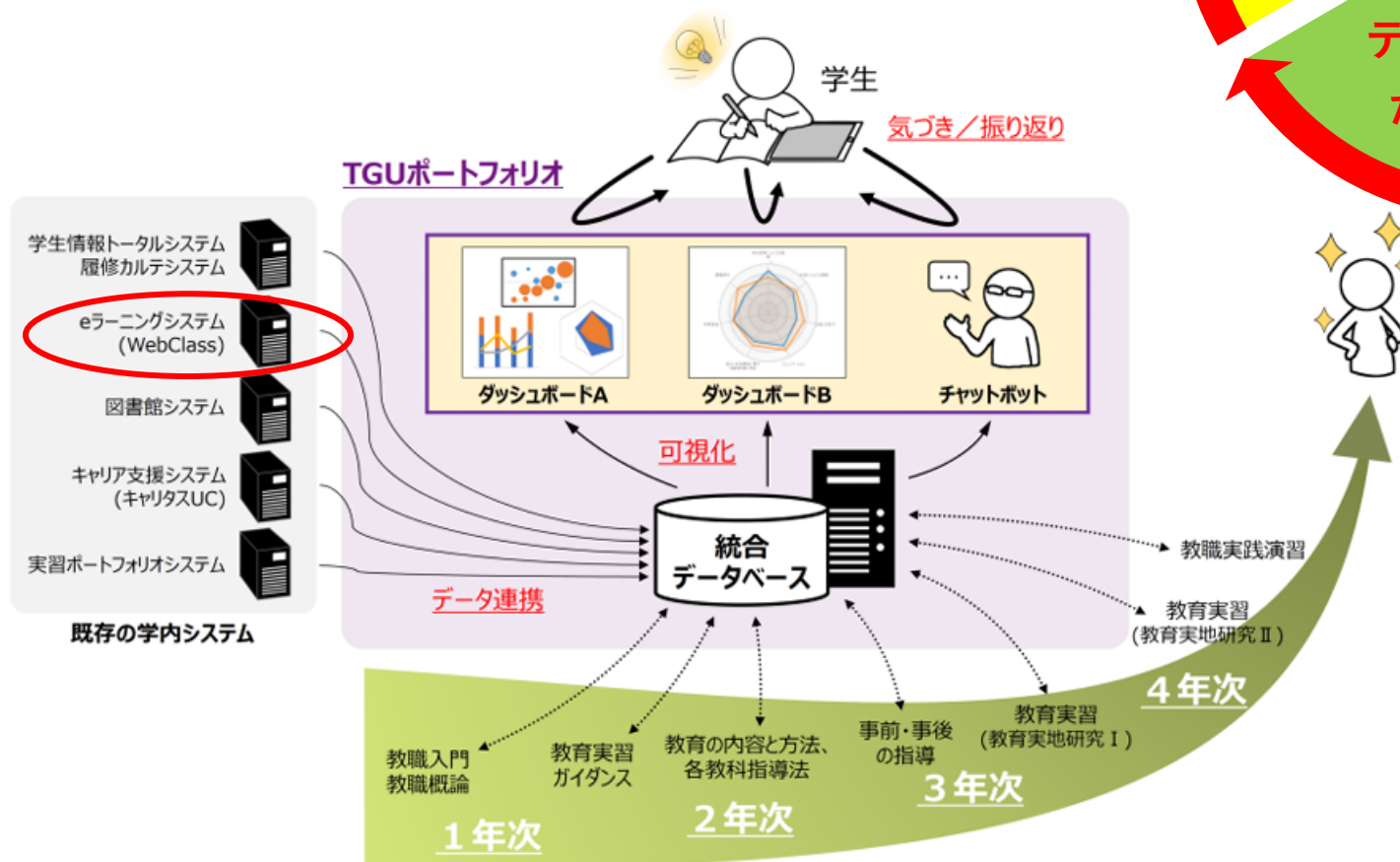
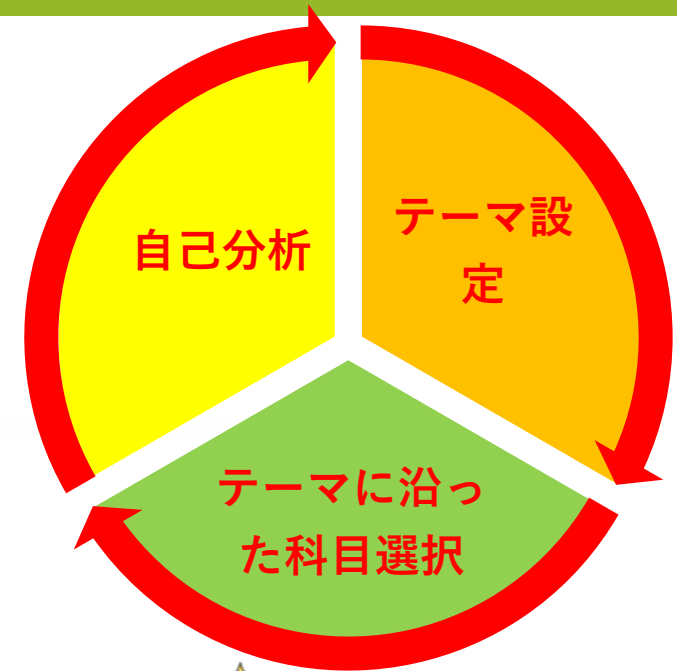
《履修方法》学校教育教員養成課程：修得単位 11 単位 ※内訳【6 単位(必修) + 5 単位(I 群から 3 単位、II 群から 2 単位)】

教育支援課程：修得単位 7 単位 ※内訳【1 単位(「教育のためのデータサイエンス」必修) + 6 単位(I 群、II 群から 3 単位ずつ)】

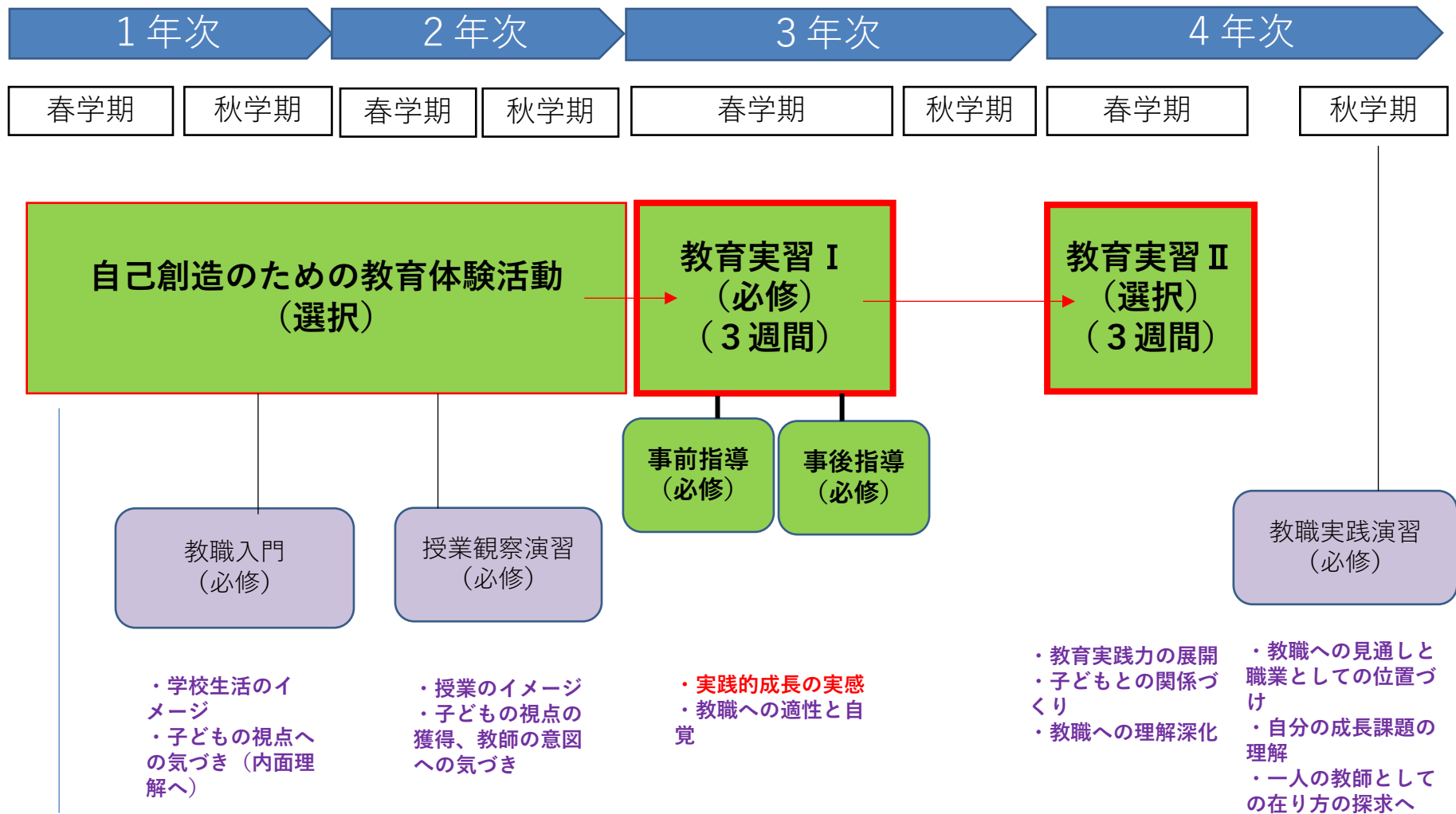
※「自由選択科目」（学校教育教員養成課程・最大 9 単位、教育支援課程・19 単位）の中でも、一定単位数履修することが想定される。

3. 自律型カリキュラムデザインのサイクル

- Webclassの入力フォームに内容を保存
- 見直しの機会を設け、自身の考え方の
変化等を記録するツールとして使用



3. 実践系科目の構成と教育実習



自主的、主体的な教育体験活動 → 教職の意義や大学での学びの意味づけ

3. 自己創造のための教育体験活動

○授業のねらいと概要

3年次の教育実習に参加する前に、主に1年次、2年次に教育現場等で、一定期間体験活動を自主的に行うことを通して、教職の意義や大学での学びの意味に気づくことがねらい。自らが求めて様々な教育現場で、教育体験活動を経験することを通して、自分にとっての教職や教育の意義や魅力を体感したり、その課題に気づいたりすることができ、また、そこでの学修成果を、教育創成科目の選択に生かしたり、教育実習等につなげたりするなど、大学での学びと関連付けることができる。

○主体的な体験活動の例

- ・ 平日、長期休業中(8月～10月中旬など)における教育体験活動
授業参観、指導補助、教材研究補助、授業準備補助、水泳指導補助、部活動指導補助、移動教室引率補助、放課後こども教室支援、研究公開への参加 など
- ・ 週末の教育体験活動
運動会や文化祭等の行事における指導補助、部活動指導補助 など

○実施プロセス

4月以降に実施するオリエンテーションに参加。各フィールドへ学生から連絡・各校にて面談。計画書の作成や、9月、2月に予定されている体験後の報告書の提出と交流会への参加により、事後的に単位認定。

評価基準

- ① 教育体験活動を行うことを通して、教職や教育支援の意義や魅力を体感したり、その課題に気づいたりすることができる。
- ② 教育体験活動で得た学修成果を、教育創成科目の選択に生かしたり、教育実習等につなげたりするなど、大学での学びと関連付けることができる。

3. 自律型カリキュラムデザイン



3. 自律型カリキュラムデザインに期待される効果

自律型カリキュラムデザインによる4つの効果

- 各授業科目において得られる力が明確化。学生の目的意識が明確になることによる高い学習効果
- それぞれのニーズにあわせて履修科目を選択可能。無駄のない個別最適なカリキュラムが実現
- **自ら履修計画を立てることによる、学生の主体性、自律性の成長**
- 学生が、学ぶ側にたって、体験的に、カリキュラムづくりを考える機会を提供

3. 学生の経験①

特別支援教育専攻 2023年入学

【1年次】

入学時：漠然とした個別の関心（特別支援教育、いじめ、不登校、etc）



◎自律型カリキュラムデザイン

- ・自己分析／教育創成科目の選択
- ・他専攻学生とのディスカッション・交流
- …異なる関心領域（授業、学校安全、etc）

自分の理想とする教師像の明確化

“様々な環境における子供たちに対応できる教師になりたい”



◎自己創造のための体験活動

- …特別支援学級移動教室ボランティア／放課後等デイサービス支援
- 教師や支援者との対話や実践を通した経験・実感

【2年次】

1年次からの成長

「対子供」から「対自分」への意識の転換 …「教師は学び続けなければならない」

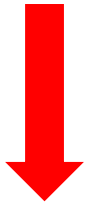


教育創成科目の修正

3. 学生の経験②

初等教育専攻（国語コース） 2023年入学

目指す教師像「ICT教育に精通した教員」



◎自己創造のための体験活動

…体操教室の補助（サマーキャンプの引率）

プログラムの裏で教職員が子供の安全確保のために準備

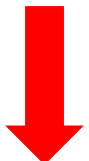


目指す教師像に「社会との連携ができる教師」を追加

教育創成科目で「学校安全」に関する科目を追加

中等教育専攻（社会コース） 2023年入学

目指す教師像「（中高の人格形成期で）子どもとのかかわりを意識している教師」



◎自律型カリキュラムデザイン

…「遊び」に関する科目を発見

教育創成科目で「遊び」に関する科目を追加

…“幼児の「遊び」を中高の活動に取り入れられないか”

4. フラッグシップ大学特例の活用

教育創成科目の必修5科目（各1単位）

- ・ 社会に開かれた探究と創造の学びのデザイン
- ・ 学びを支えるファシリテーションの技法
- ・ 教師のレジリエンスと自己管理能力の育成
- ・ チーム学校と多職種協働
- ・ 教育のためのデータサイエンス

		小学校教員免許（R5～）			中・高教員免許（予定）		
		法令		本学の必要位単 （フラッグシップ）	法令		本学の必要位単 （フラッグシップ）
（指定大学が加える科目）				5単位			5単位
教科に関する専門的事項	30単位	⇒		5単位	20単位	⇒	15単位
各教科の指導法				20単位	8単位		8単位
教育の基礎的理解に関する科目 等	27単位				27単位		
大学が独自に設定する科目	2単位				4単位		
合計	59単位				59単位		

※令和7年度入学生から、中学校・高校免許へ特例適用予定。
現在、各教室と科目の調整方法を検討中